

共同福祉と公共福祉の狭間

～社会調査からの実証的アプローチ～

青山学院大学総合文化政策学部

助教 福島慎太郎

本日の発表内容

1. はじめに

- 日本の福祉政策における社会関係の重要性

2. 実証研究

- 共同的/公共的な社会関係の特徴の違い
 - A) 社会関係の性質
 - B) 社会関係と住民の協力行動
 - C) 社会関係と住民の福祉
 - D) 私的福祉と共同福祉

3. おわりに

- 共同関係から公共関係へ
- 共同福祉と公共福祉の狭間の中で

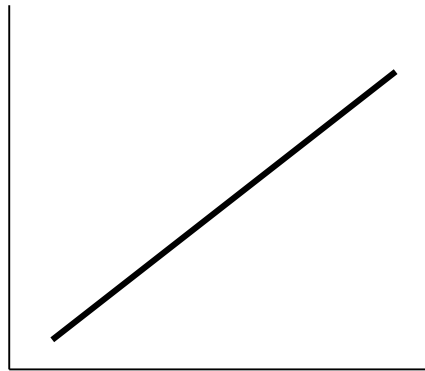
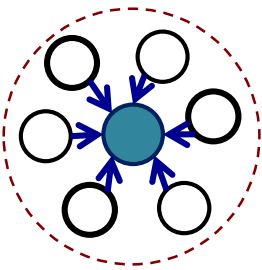
1. はじめに

日本の福祉と社会関係

- ✓ 従来、人々の幸福の捉え方やその実現の過程は世界共通であるという認識の下で、研究や政策が遂行されてきた。
 - 特に、欧米が主導する**個人単位**の目的実現や自尊心の向上に基づいた福祉の達成が強調されてきた(e.g. OECD, 2011)。
- ✓ 幸福の持つ意味は文化普遍的ではない(Uchida & Ogihara, 2012)。
- ✓ 日本文化の幸福においては、他者との関係性が主要な役割を果たす(e.g. Hitokoto & Uchida, 2014)。

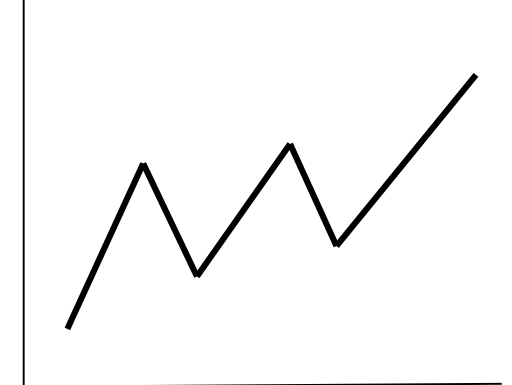
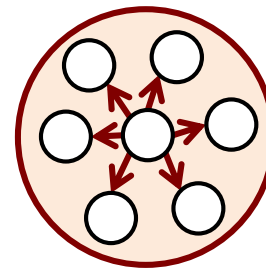
日本における福祉観

欧米人



- ✓ 個人の達成
- ✓ 直線的な上昇

日本人



- ✓ 周囲との協調
- ✓ バランス志向

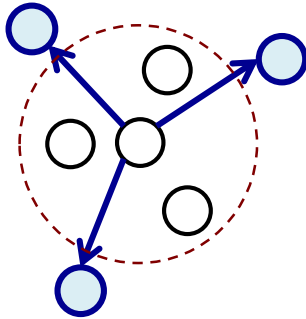
2. 共同的な関係と公共的な関係 の相違

① 社会関係の性質

共同的な関係と公共的な関係

公共的な関係

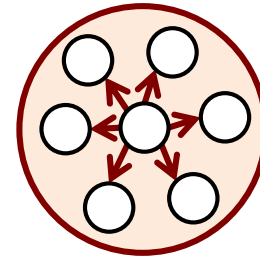
特定の共同体を超えた
市民一般との関係



(e.g. Yamagishi & Yamagishi, 1994)

共同的な関係

共同体内部の具体的な
相手との関係



(e.g. Uslaner, 2002)

公共的信頼

Q:「国内の**旅先**や**見知らぬ土地**で出会う
人のうち、信頼できると言えるのは？」

共同的信頼

Q:「この**町内・集落**で信頼できると
言えるのは？」

A. 「ほとんどすべての人」「半分程度の人」「少数の人」「誰もいない」

社会調査の実施

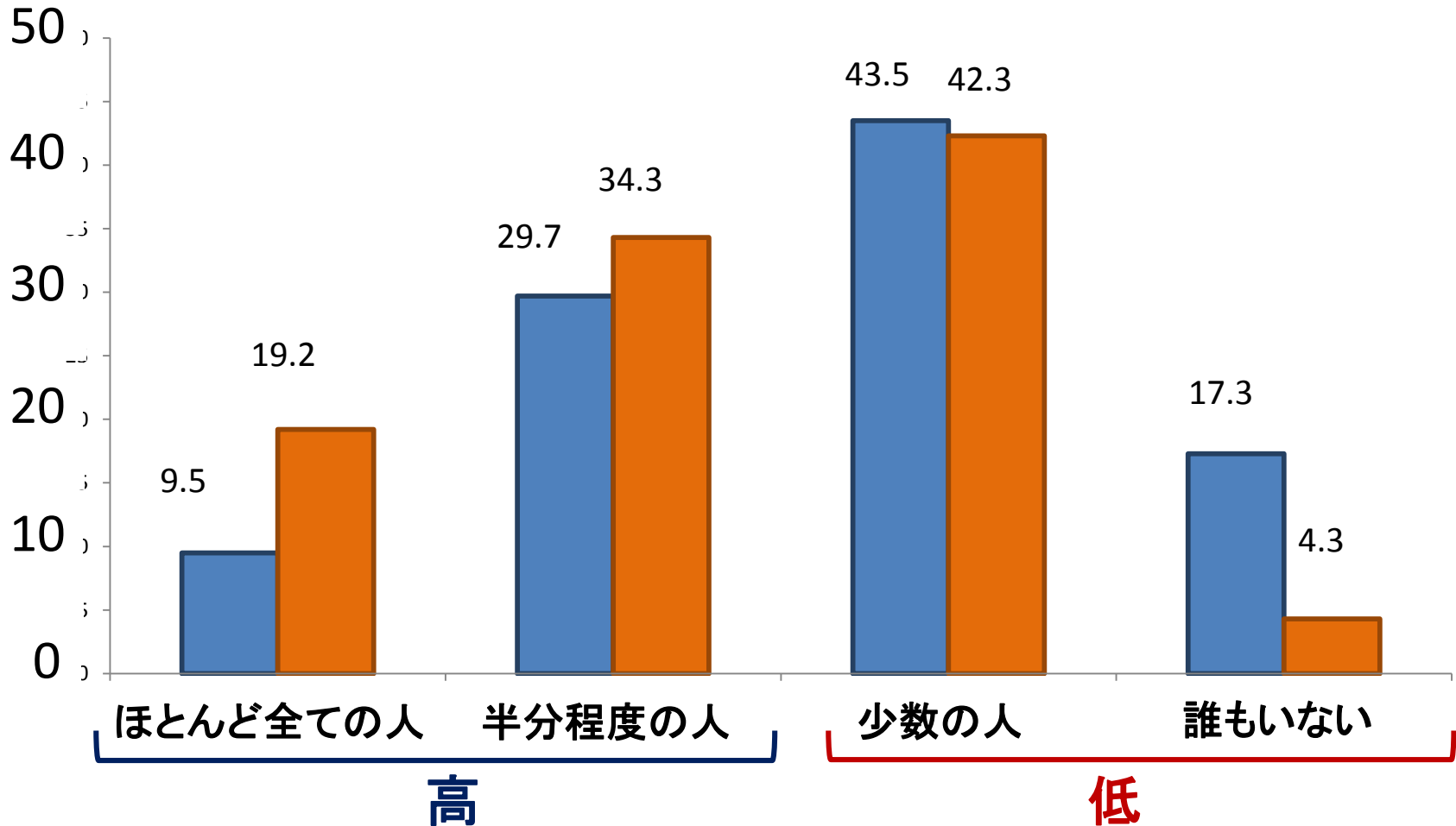
調査の対象

- 京都府の中丹地域における全農村地域
- 441の地域共同体(平均75世帯)で構成される

調査の方法

- 対象地域の全32,685世帯に対する質問紙調査

公共的/共同的な信頼の度数分布



✓ 信頼の強さは個人によって様々

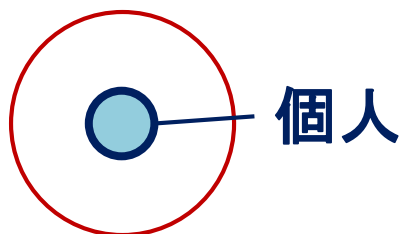
信頼はどのような個人に形成されるのか？

公共的信頼

教育水準
(高)

年齢
(低)

教育を通じて**個人の**
内面に形成される



共同的信頼

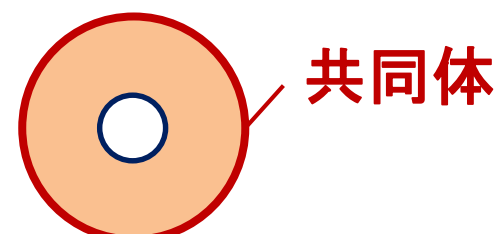
地域住民との交流
(大/小)

出生地
(地域内)

年齢
(高)

世帯人数
(多/少)

✓住民との交流の積み重ねに応じて
地域の人々の間に形成される



信頼は集団単位の固有性を持つか？¹¹

旧内相関係数 (ICC)

集団間分散

集団内分散 + 集団間分散

公共的信頼

< 0.01 ($p=0.69$)

個人単位の固有性
のみによって説明される

内集団信頼

0.05 ($p < 0.01$)

個人の固有性に加え
集団単位の固有性を有する

信頼はどのような地域に醸成されるか？

類型項目	類型区分	肯定的な回答(%)	
		公共的信頼	共同的信頼
農家戸数 比率(%)	～22	39.4	42.3***
	23～49	39.1	51.3
	50～66	40.4	60.2
	67～	38.0	59.9
農業地域 類型	都市的	40.5	43.7***
	平地農業	40.8	54.0
	中間農業	39.0	55.0
	山間農業	37.9	60.3

↓大

↓大

✓ 農業地域・中山間地域で共同的信頼が高い

共同的信頼はどのように形成されるのか？

共同的信頼

地域住民との交流
(大/小)

出生地
(地域内)

年齢
(高)

世帯
人数

個人単位の要因

地域住民との交流
(大/小)

出生地
(地域内)

集団単位の要因

- ✓ 本人だけでなく**集団メンバー**が地域に居住し交流を深め合うことで**集合的**に内集団信頼が高まっている

まとめ

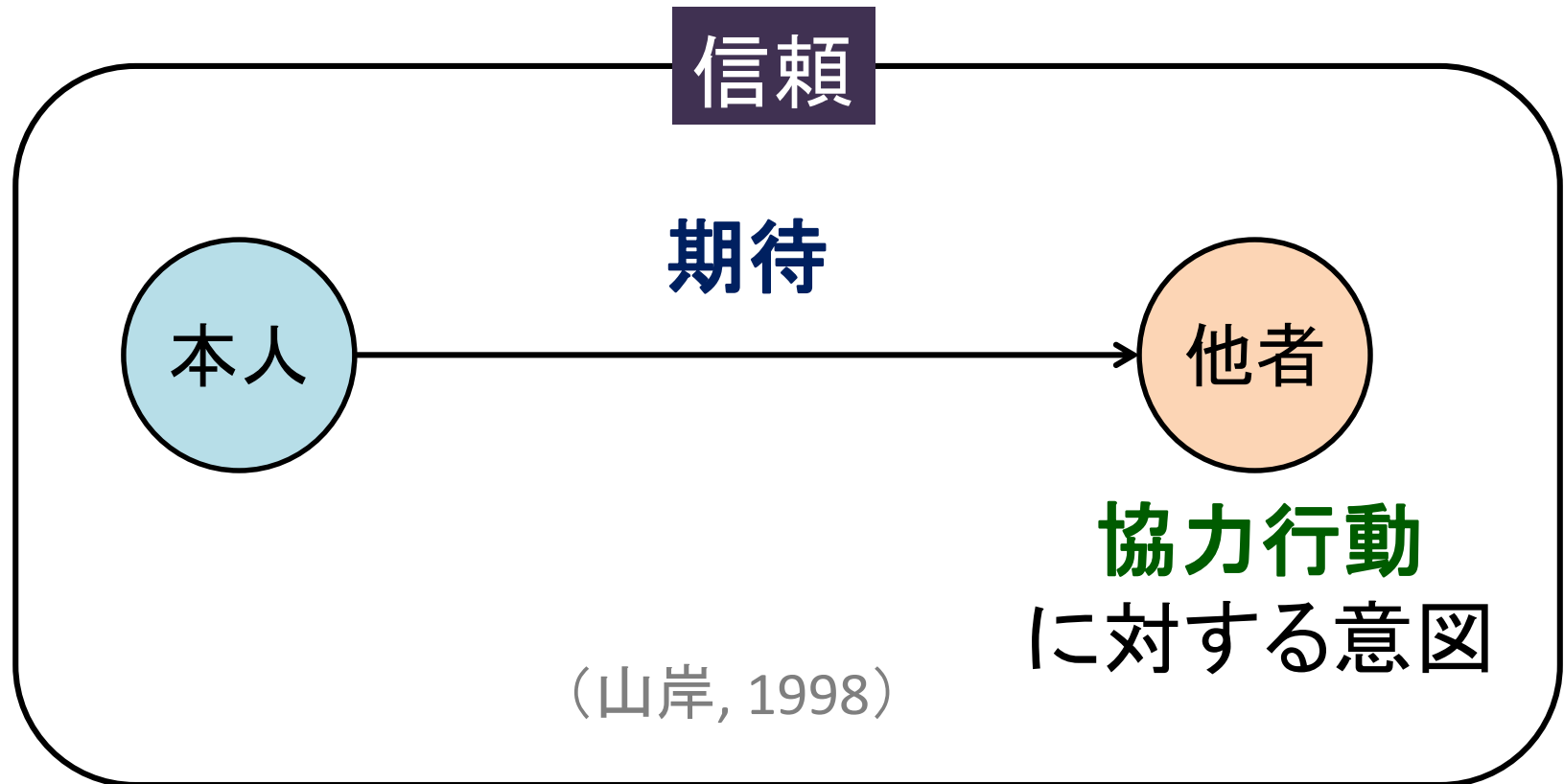
- ✓ 公共的信頼は**個人の内面**に形成されるのに対して、共同的信頼は**地域住民の間**に形成される
- ✓ 公共的信頼は**個人単位**の特性として人々に形成されるのに対して、共同的信頼は**集団単位**の特性として形成される。
- ✓ 共同体信頼の集団単位の特性は、地域住民が年月をかけて交流を深め合うことで**集合的**に高まっている。

年月をかけた交流をしなければ共同的信頼は醸成されないのか？

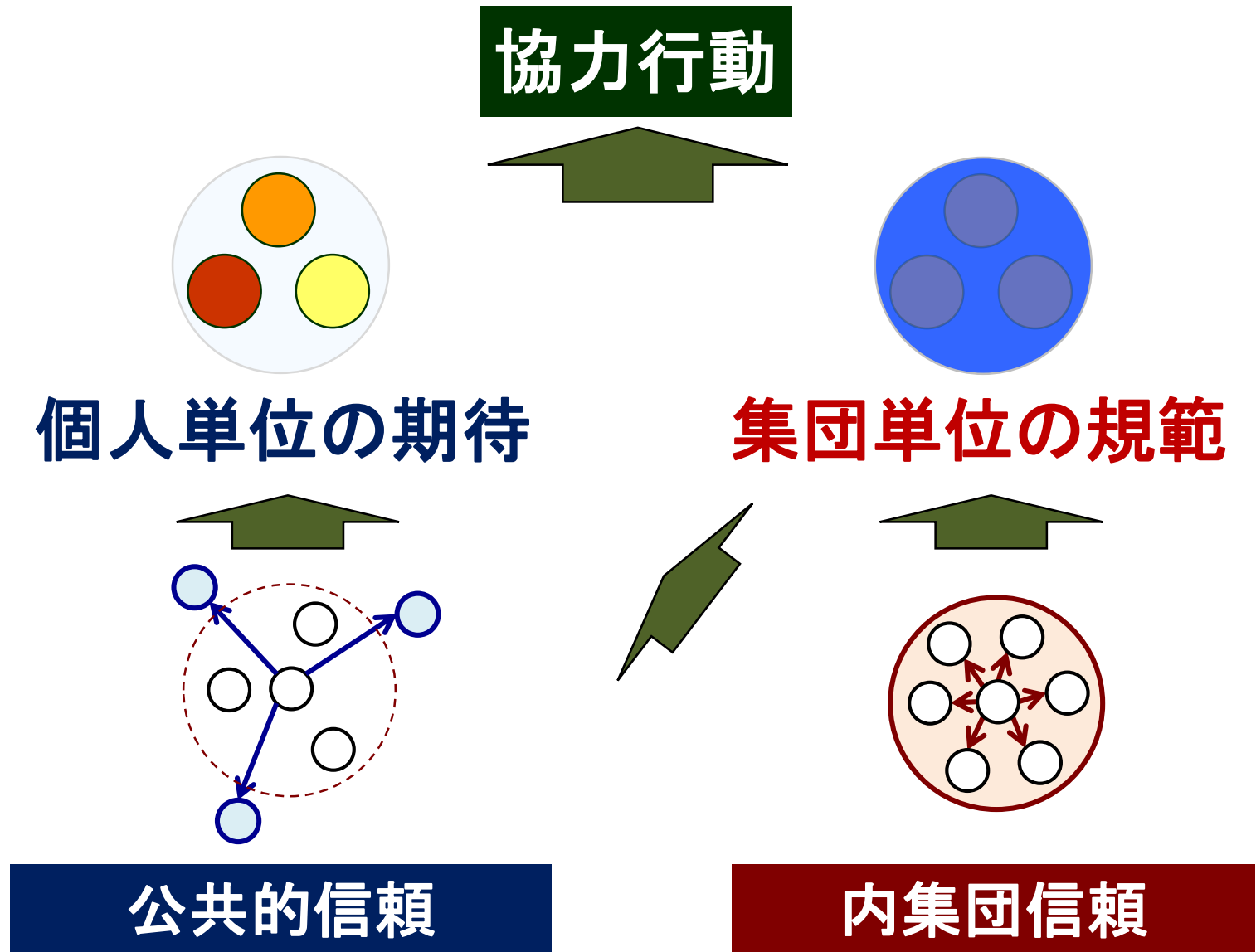
2. 共同的な関係と公共的な関係 の相違

② 信頼と住民の協力行動

信頼と協力行動



信頼と協力行動



協力行動

地域共有資源管理

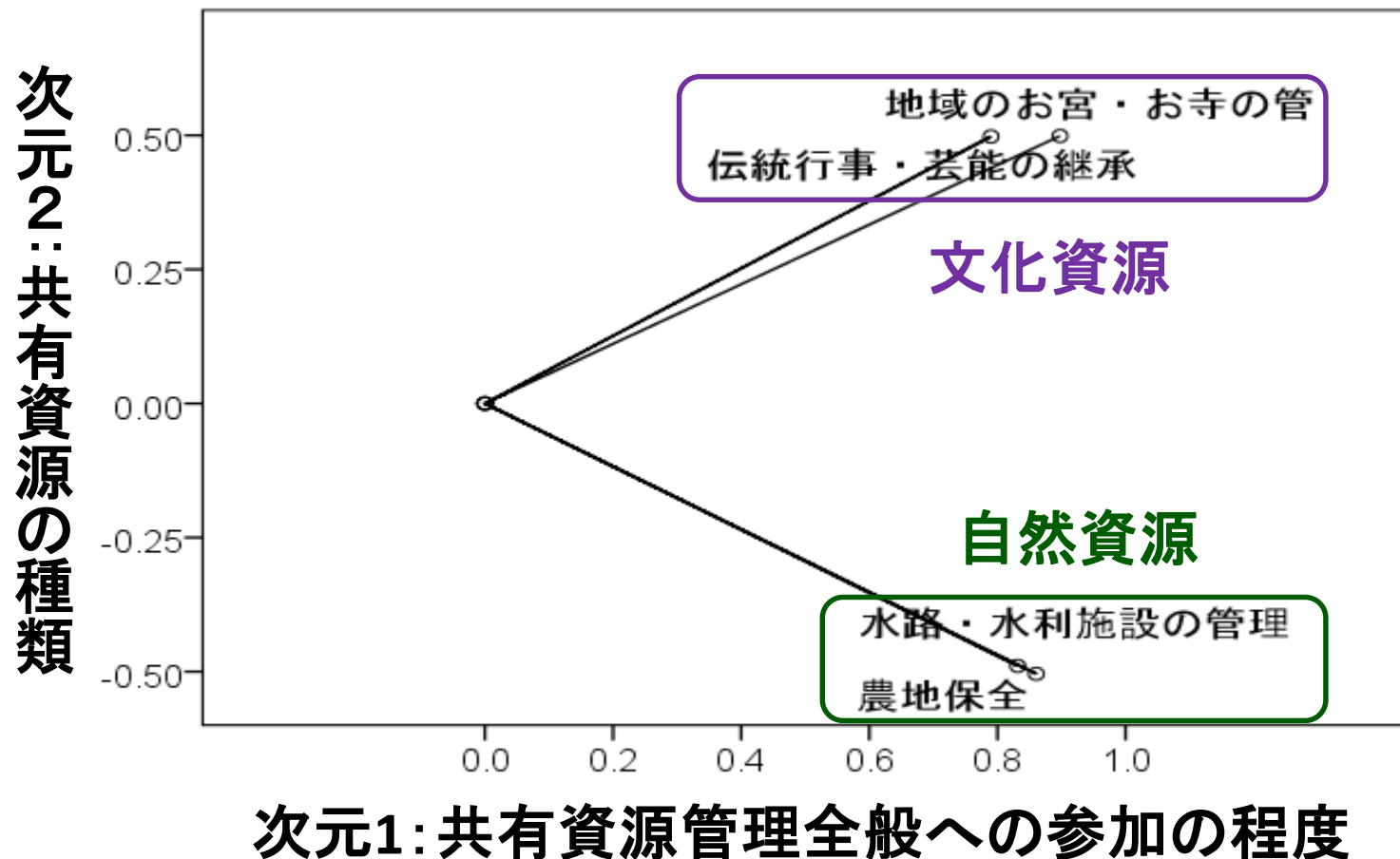
- ✓ 農地保全
- ✓ 水路・水利施設の管理
- ✓ 伝統芸能の継承
- ✓ 神社・仏閣の管理

【質問項目】 次の活動にどの程度参加されていますか？

【回答項目】 「1. 積極的に参加する」「2. 可能な範囲で参加」
「3. あまり参加しない」「4. まったく参加しない」

信頼と協力行動

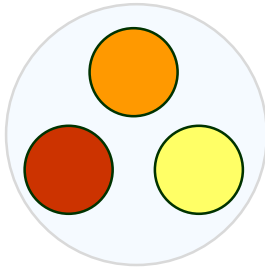
地域共有資源管理



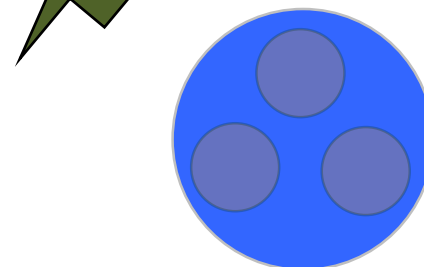
分析の方法

マルチレベル分析

協力行動



個人レベル変数
(個人単位の期待)



集団レベル変数
(集団単位の規範)

分析の結果

住民の**協力行動**を説明する要因

変数	レベル	b
公共的信頼	個人レベル	0.04
	集団レベル	0.07
共同的信頼	個人レベル	0.28 ***
	集団レベル	0.61 ***

- ✓ **内集団信頼**は、**個人の期待**と同時に**集団の規範**として
住民の**協力行動**を促進させる

分析の結果

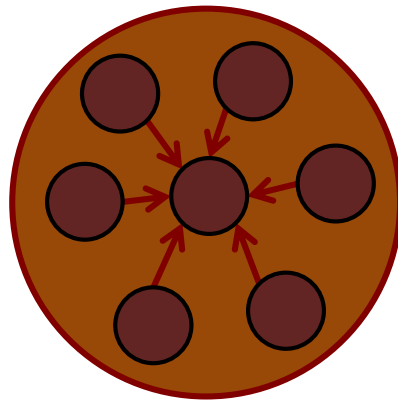
共同体信頼を説明する要因

変数	レベル	b
公共的信頼	個人レベル	1.47 ***
	集落レベル	-0.36
協力行動	個人レベル	0.29 ***
	集落レベル	0.89 ***

- ✓ 協力行動も逆に、個人ならびに集団の双方の単位で共同的信頼を上昇させる

共同的信頼の自己維持メカニズム

- ✓ 共同的信頼により生起した協同活動は、再びメンバーの共同的信頼を高め、更なる協力行動を生み出す



- ✓ 個人と集団の間の**相互構成的なサイクル**が**集合的に生じる**ことで信頼・協同活動が維持・再生産される

2. 共同的な関係と公共的な関係 の相違

③ 信頼と住民の福祉

福祉指標

主観的な健康状態

質問項目：

✓ 「現在のあなたの健康状態はいかがですか？」

回答項目：

✓ 「とてもよい」「まあよい」「あまりよくない」「まったくよくない」

高

低

身体的な健康状態ならびに**心理的・精神的**な健康状態
を総合的に反映する福祉指標 (Idler & Benyamini, 1997)

分析の結果(個人単位)

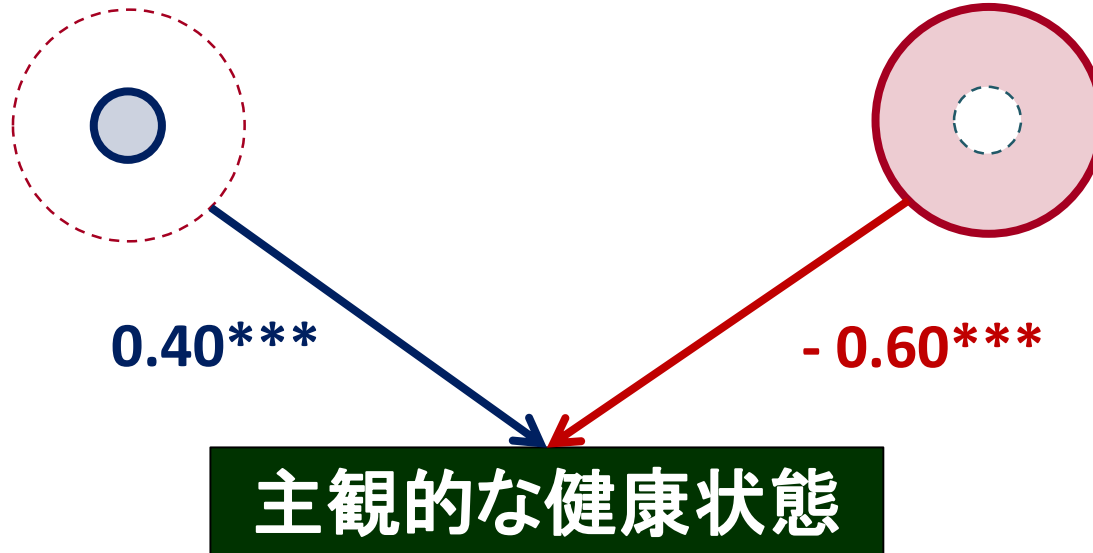
変数	回答項目	オッズ比
公共的信頼	ほとんどすべての人	1.21
	半分程度の人	1.24**
	少数の人	0.99
	誰もいない	1.00
共同的信頼	ほとんどすべての人	3.71***
	半分程度の人	2.85***
	少数の人	2.08***
	誰もいない	1.00

✓ 共同的信頼が個人単位で福祉水準を高めている

マルチレベル分析(共同的信頼)

個人レベル
(「私」の信頼)

集団レベル
(「みんな」の信頼)



- ✓ 「私」の信頼は主観的な健康状態を増進する
- ✓ 「みんな」の信頼は主観的な健康状態を低減する

信頼関係の二面性

絆



- ◆ “きずな”: 2011年の「今年の漢字」に選出。

個人間の物理的・心理的なつながり

- ◆ “ほだし”: 集団・社会から課せられる期待

個人の自由を制限する足かせ

→個人・集団に保有される信頼関係は二面性をもつ

2. 共同的な関係と公共的な関係 の相違

④ 私的福祉と共同福祉

私的福祉と共同福祉

私的福祉

✓ 私は幸せである。

共同福祉

✓ 町内(集落)の人々は
幸せであると思う。



共同的福祉

✓ 個人の福祉と集団の福祉が不可分であり、集合現象として成立している状態。

✓ **心理プロセス**としての共同福祉

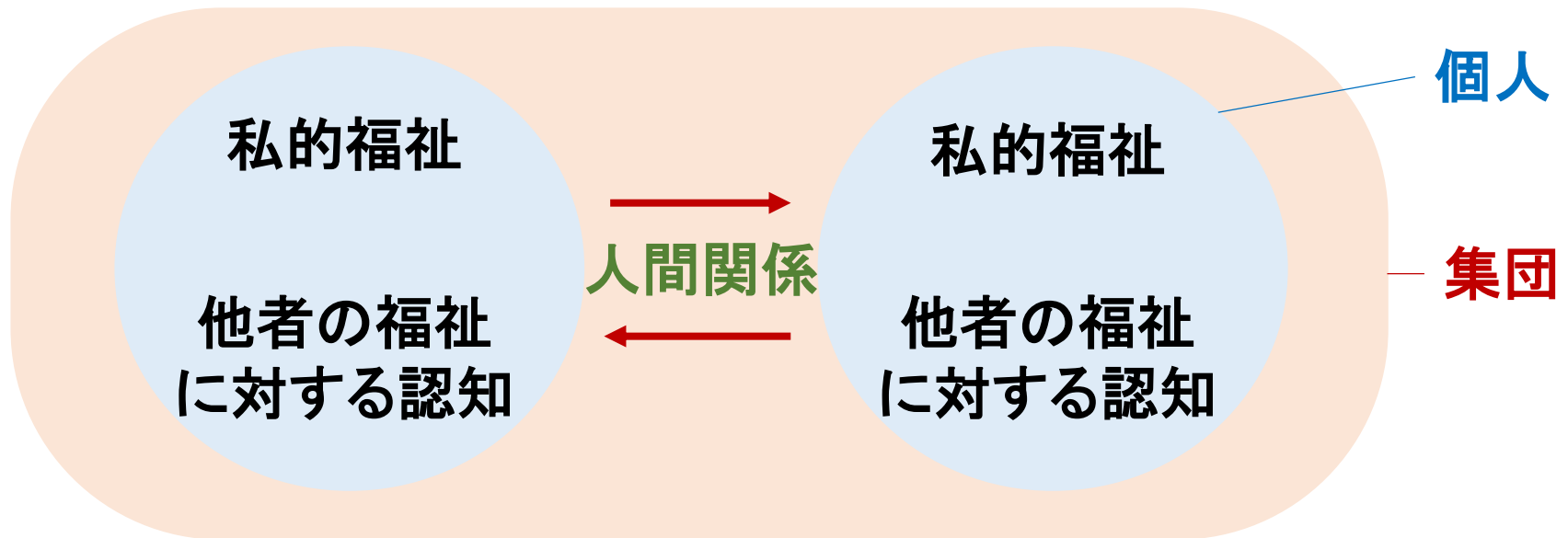
➤ 個人の主観的福祉は、集団の福祉に対する認知と切り離されずに成り立っている。

✓ **社会プロセス**としての共同福祉

➤ 共同福祉は、個人の心理プロセスに留まらず、**人間関係**に基づいて成立している。

社会プロセスとしての共同福祉

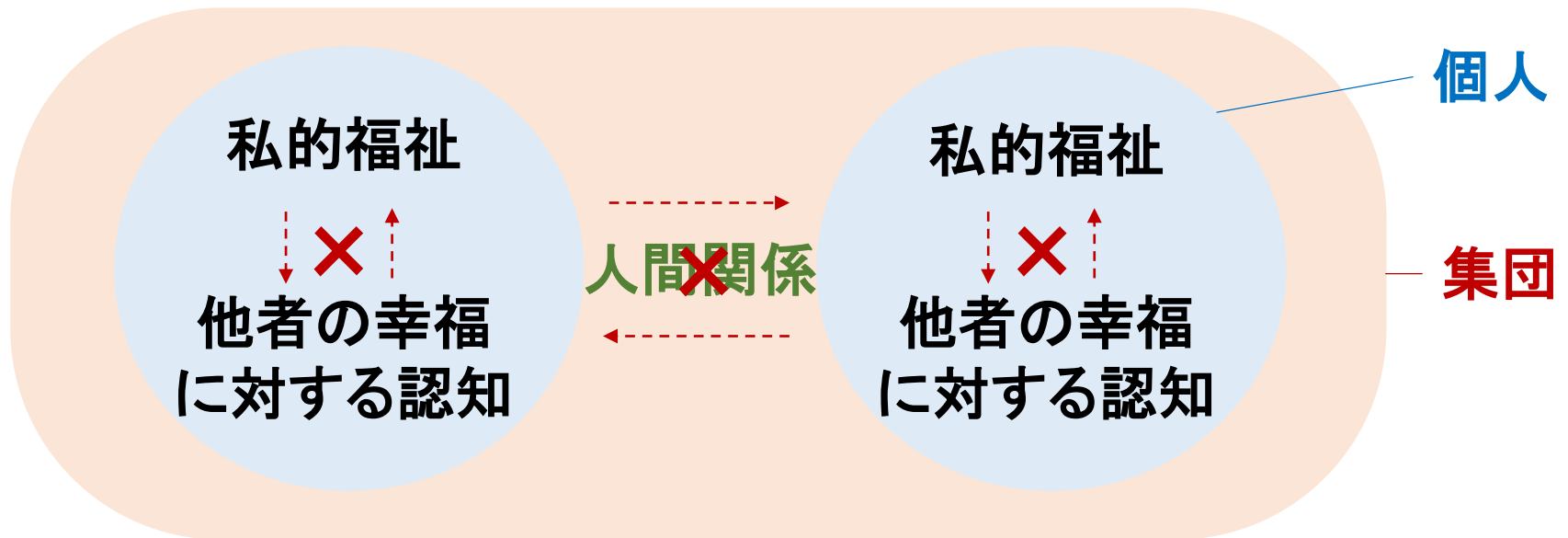
- ✓ 共同福祉は、住民同士の人間関係に基づき、集団を単位として成立している。



- 人間関係が豊かな地域では、心理プロセスとしての共同福祉が成立する傾向にあるが...

社会プロセスとしての共同福祉

- ✓ 共同福祉は、住民同士の人間関係に基づき、集団を単位として成立している。

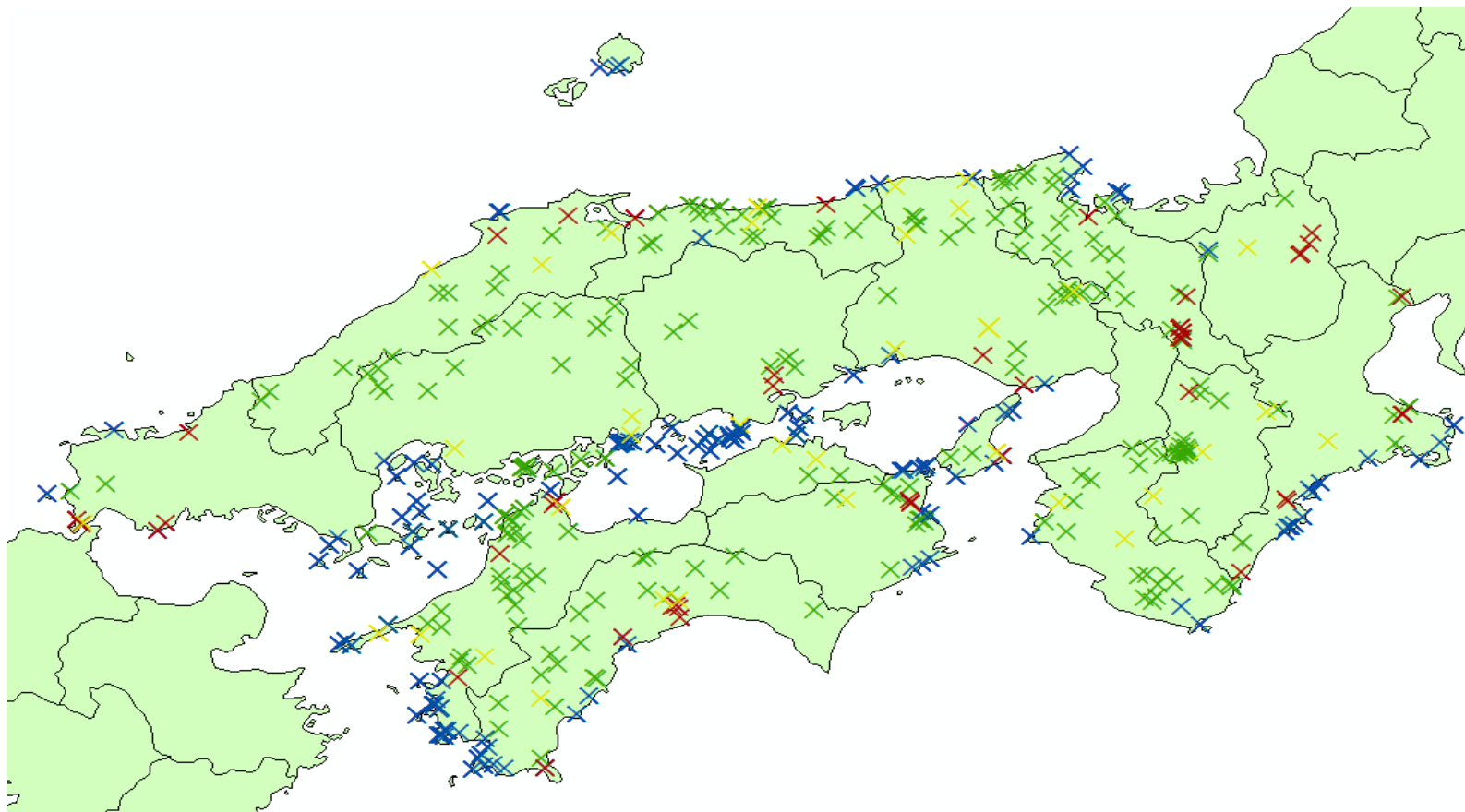


- 人間関係が豊かでない集団では、心理プロセスとしての共同福祉は成立しにくい傾向にある。

調査の対象

✓ 近畿・中国・四国地方の計412地域コミュニティ

✕ 農村地域 ✕ 漁村地域 ✕ 都市地域 ✕ その他地域



調査の対象

✓ 近畿・中国・四国地方の計412地域コミュニティ

✓ 有効回答: 7,295人(有効回答率: 17.0%)

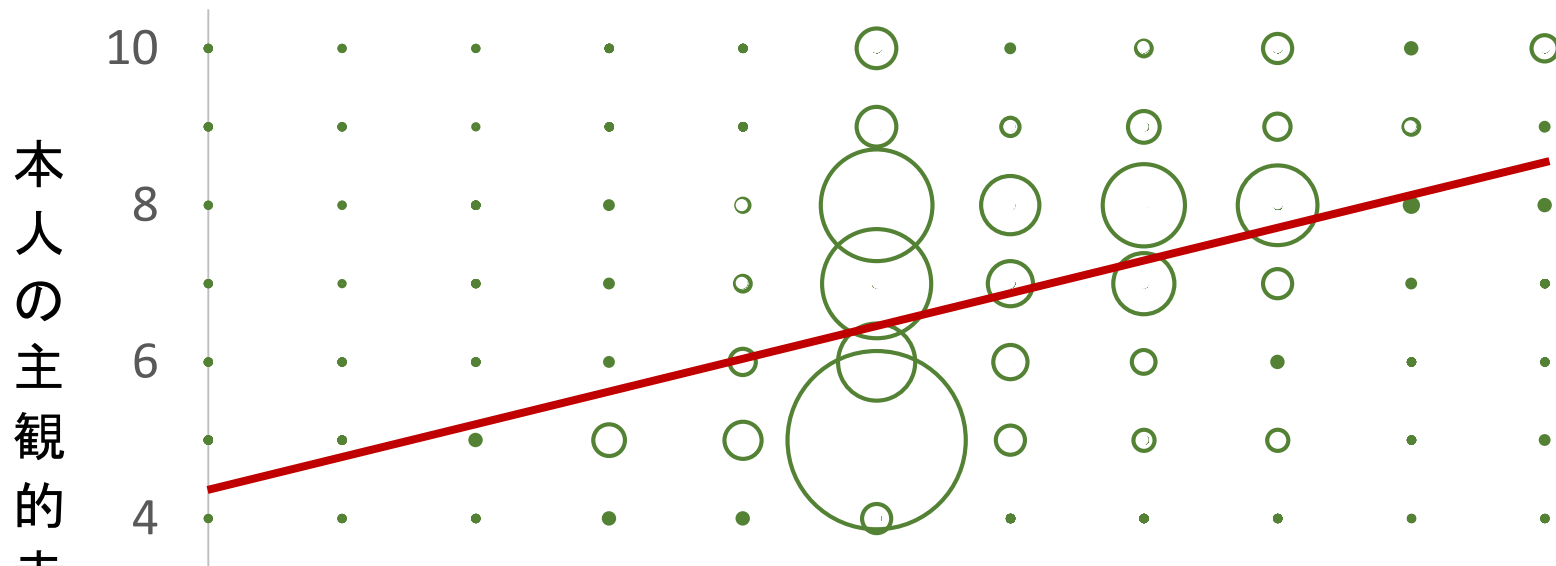
➤ 農村地域: 3,083人(有効回答率: 24.0%)

➤ 漁村地域: 1,917人(有効回答率: 15.3%)

➤ 都市地域: 1,324人(有効回答率: 11.9%)

➤ その他地域: 1,239人(有効回答率: 16.5%)

個人単位の心理的プロセスとしての 共同福祉の成立



✓ 同じ町内(集落)に住む人の幸福度が高いと認知している人は、本人の幸福度も高い



個人単位の心理プロセスとしての集合的幸福が成立

共同福祉は何を要因として成立するのか？

① 個人や地域の**基本属性**？

✓ 個人の基本属性

- 性別、年齢、居住年数、学歴、所得、婚姻状態
職業（農業、漁業） etc...

✓ 地域の基本属性

- 人口密度、農業者比率、漁業者比率

✓ いずれの**基本属性**も、集合的幸福を促進させてはいなかった

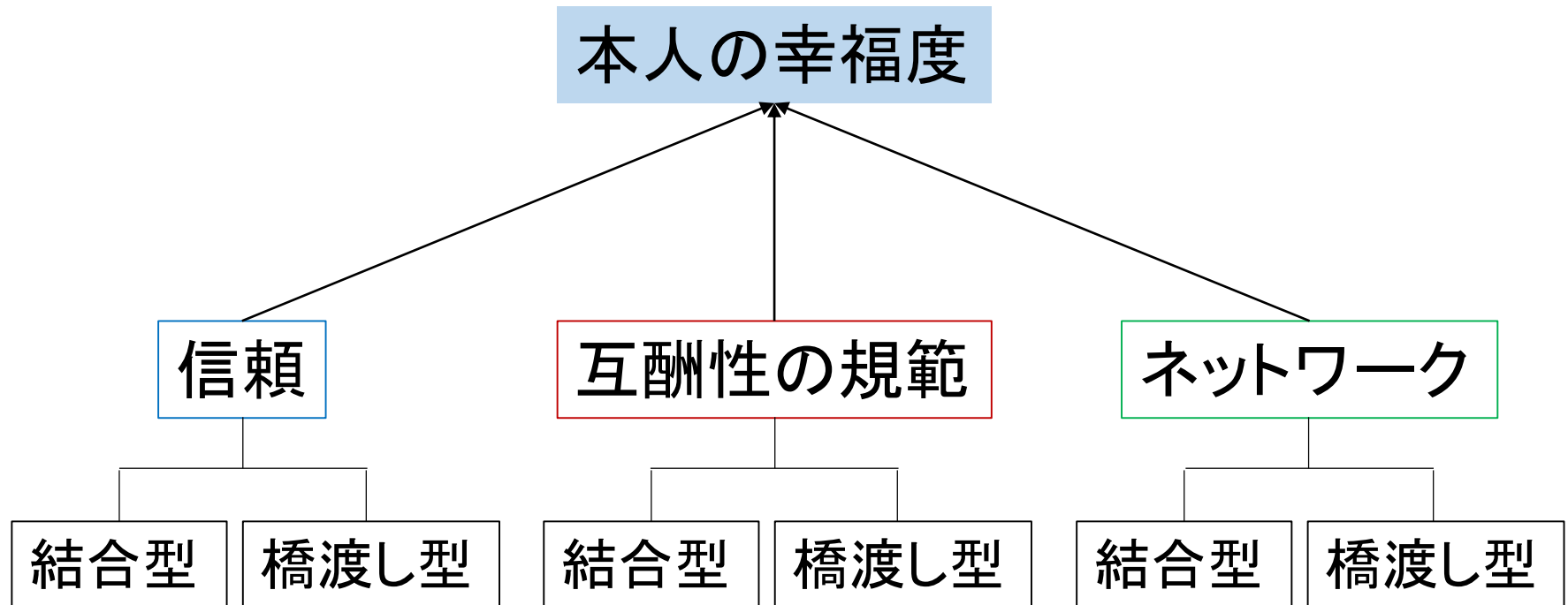
共同福祉は何を要因として成立するのか？

② 社会関係？

「ソーシャル・キャピタル」

- ✓ **個人単位**の社会関係だけでなく、**集団・地域を単位**とした社会関係を捉える概念 (e.g. Putnam, 1993)
 - 3つの要素
 - ・ 信頼、互酬性の規範、ネットワーク
 - 2つの類型
 - ・ 結合型 (**共同的**な関係)、橋渡し型 (**公共的**な関係)

(1) 個人単位のソーシャル・キャピタル

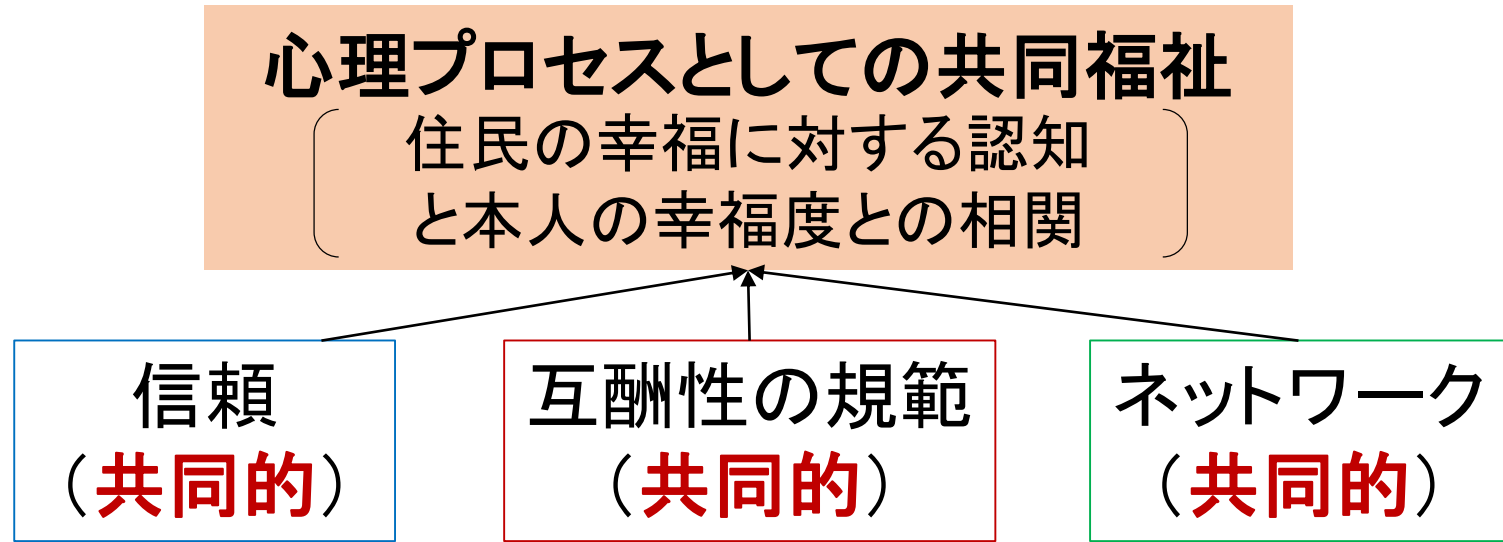


✓ **個人単位**のソーシャル・キャピタルは、全ての要素・類型において本人の幸福度を正に予測した

→ 幸福に対する**個人の資源**として機能していた

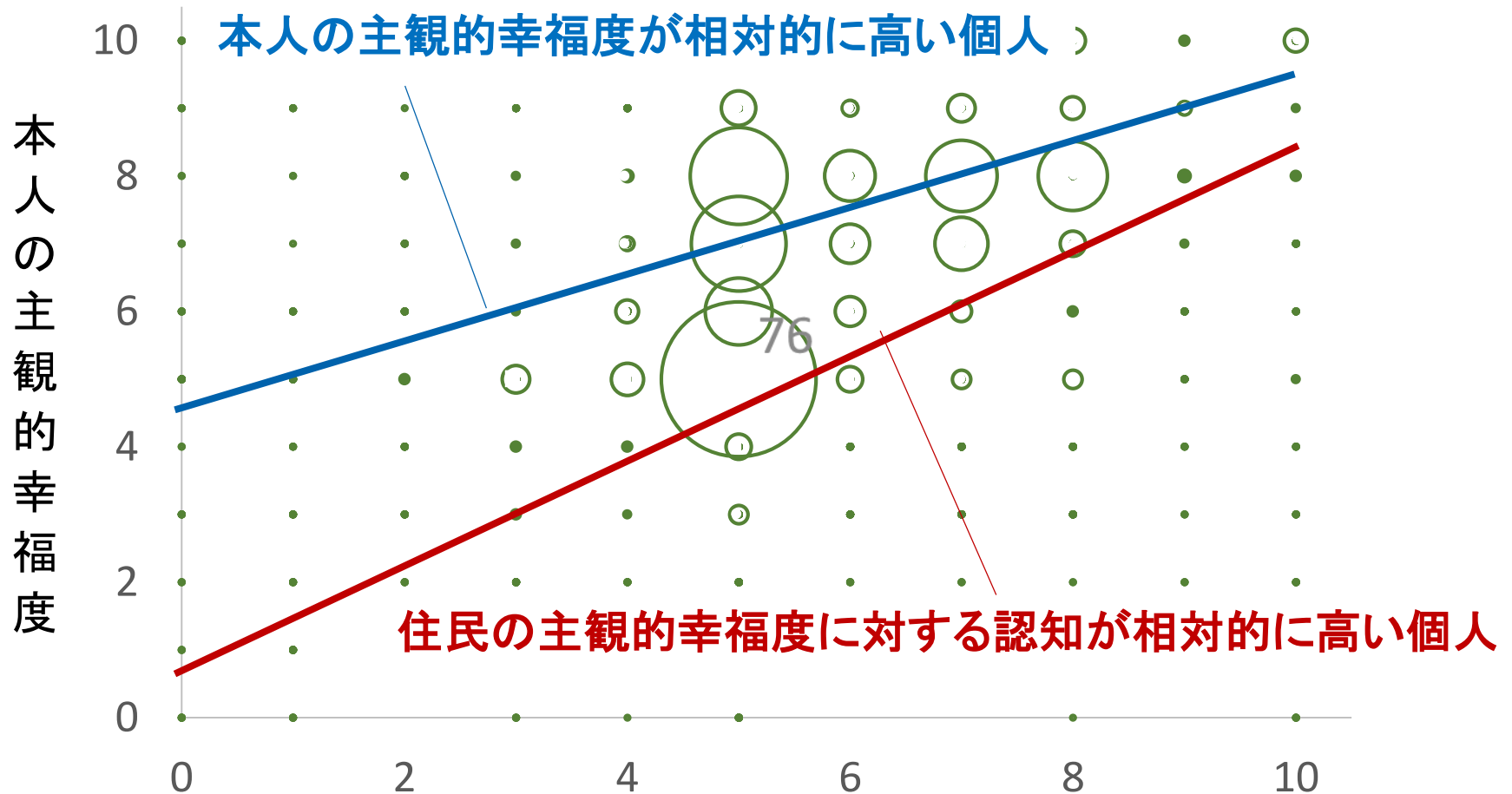
✓ **集団単位**のソーシャル・キャピタルは効果をもたなかった

(2) 集団単位のスーシャル・キャピタル



- ✓ **集団単位**に形成された**共同的**なスーシャル・キャピタルが豊かな地域において、**社会プロセスによる共同福祉**の成立が促進されていた
 - 集団を超えた**公共的**なスーシャル・キャピタルは、共同福祉を促進させてはいなかった

私的福祉と共同福祉のせめぎ合い



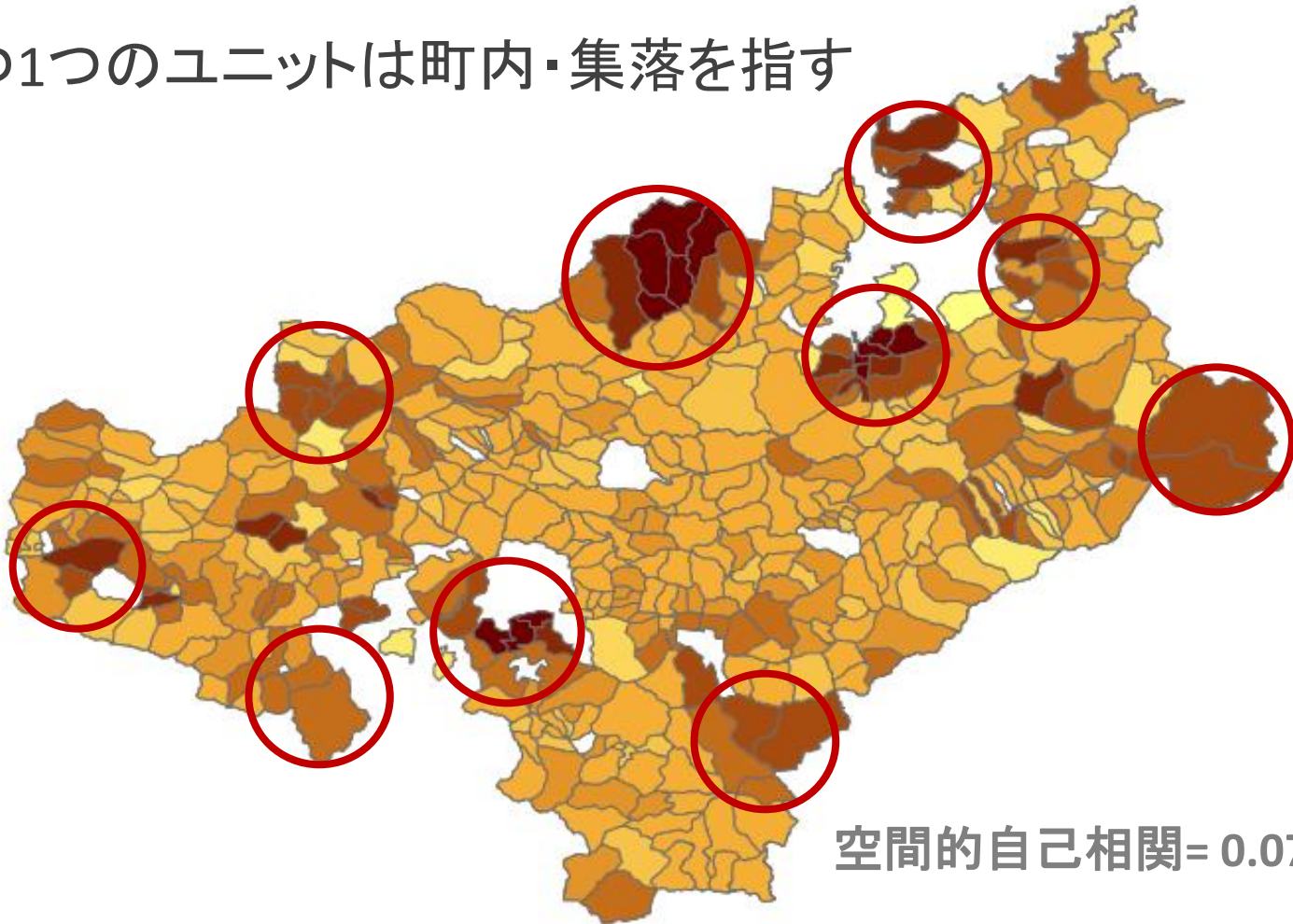
✓ 私的福祉と共同福祉はトレードオフ関係にある

3. おわりに

～共同関係から公共関係へ～

共同的信頼の空間的広がり

※1つ1つのユニットは町内・集落を指す



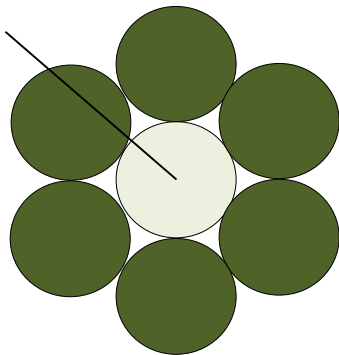
空間的自己相関= 0.075 ($p < 0.001$)

✓ **共同的信頼**の性質は隣接する地域に派生している

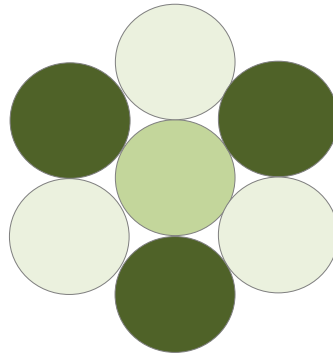
共同社会から公共社会へ

公共的信頼

集落



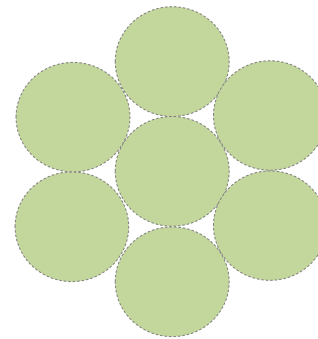
都市化



地域共同体に
閉じられた性質

空間的にラン
ダムな性質

共同的信頼



都市化



流動化

範囲拡大の進行

地域共同体から
開かれた性質

✓ 都市化に伴い共同的关系は隣接地域に開かれ、
公共的关系は地域文化として形成されつつある

発表のまとめ

公共的な関係

共同的な関係

性質

- ・個人単位の特性として
市民の内面に形成
- ・集団単位の特性として
住民の間に形成

協力行動との 関係

- ・市民の利他(ボランティア)
行動を・・・？
- ・住民の協力行動を自己
維持的に再生産する

福祉との関係

- ・私的福祉に一定の寄与
- ・私的福祉に寄与
- ・公共福祉への寄与は？
- ・共同福祉に寄与
- ・個人間の絆(恩恵)と
集団からの絆し(足かせ)
- ・私的福祉と共同福祉の
トレードオフ関係

皆さまは、どのような社会を望みますか？